

◆重点普及課題(モズク安定供給対策事業)

オキナワモズク人工苗床実証試験(本島地区)

與那嶺盛次・平安名盛正・久保弘文

1. 目的

モズク養殖の苗床としてアマモ場やサンゴレキ等の底質の漁場が利用されている。芽出しの時期は、網を揺らすと生長がよいと言われているが、漁場によっては、網を緩く張ると擦れるところもあり、網を十分に揺らすことができない。

久米島では育苗時に種付け網の下に敷き網を使用することにより、スレを減らし芽出しを良くすることができるとされており、その実証試験を本部町地先で実施した。

2. 材料及び方法

試験は、本部漁協モズク養殖生産部会と合同で行った。平成19年12月24日養殖新網40枚(1.5×20.0m)を同一水槽で種付けを実施した。平成20年1月4日本部町塩川地先に種付け網10枚は敷き網を使用し、種付け網10枚は敷き網を使用せずに並べて育苗に移した。底質は主にサンゴレキと砂であった。また、残りの種付け網20枚も1月5日本部町備瀬地先のアマモ場に塩川地先と同様に育苗に移した。敷き網は両地先ともピンと張った。

育苗や本張りでの生育状況の潜水観察を行い、収穫して収穫量を比較した。

3. 結果及び考察

平成20年1月21日本部町塩川地先の育苗状況を潜水観察した。敷き網をしたモズク網も敷き網をしてないモズク網も茶色に色付いており、芽出しが観察された。両者の差は確認されなかった。

1月23日本部町備瀬地先の育苗状況を潜水観

察した。敷き網をしたモズク網も敷き網をしてないモズク網も茶色に色付いており、芽出しが観察された。両者の差は確認されなかった。塩川地先よりも茶色に色付いていた。

3月25日午前、塩川地先で育苗後水納島地先で本張りした敷き網をしたモズク網と敷き網をしなかったモズク網の生育状況を潜水観察した。両者ともモズクは約20cmに伸びており差はそれほど無かった(写真⑦、⑧)。3月25日午後、備瀬地先で育苗後同地先で本張りした敷き網をしたモズク網と敷き網をしなかったモズク網の生育状況を潜水観察した。こちらは明らかに敷き網を使用した方のモズクが密に繁茂し生育状況が良好であった(写真⑨、⑩)。

備瀬地先は、4月12日、塩川地先は4月16日収穫を行った。結果は表1のとおりであった。塩川地先で育苗後、水納島地先で本張りした試験区の網1枚当たりの収穫量は敷き網ありの試験区110.7kg、敷き網なしの試験区147.2kgで敷き網なしの試験区が多かった。敷き網ありの試験区はピークが過ぎておりモズクが切れた可能性があった。

備瀬地先で育苗後、同地先で本張りした試験区の網1枚当たりの収穫量は敷き網ありの試験区125.9kg、敷き網なしの試験区75.9kgで敷き網ありの試験区が多かった。備瀬地先の育苗場所はアマモ場であるが、敷き網がアマモを押さえて種付け網を揺らす効果があると思われる。

4. 今後の課題

- (1) 継続試験による再現性の確認
- (2) 本張り後の敷き網の早期回収

表1 人工苗床実証試験結果

地 先	試 験 区	収穫網枚数	収穫量	網1枚当たりの収穫量
塩川地先	敷き網あり	10枚	1,107kg	110.7kg/枚
塩川地先	敷き網なし	10枚	1,472kg	147.2kg/枚
備瀬地先	敷き網あり	10枚	1,259kg	125.9kg/枚
備瀬地先	敷き網なし	10枚	759kg	75.9kg/枚



① 培養種による試験網の種付け



② 人工苗床用の敷き網



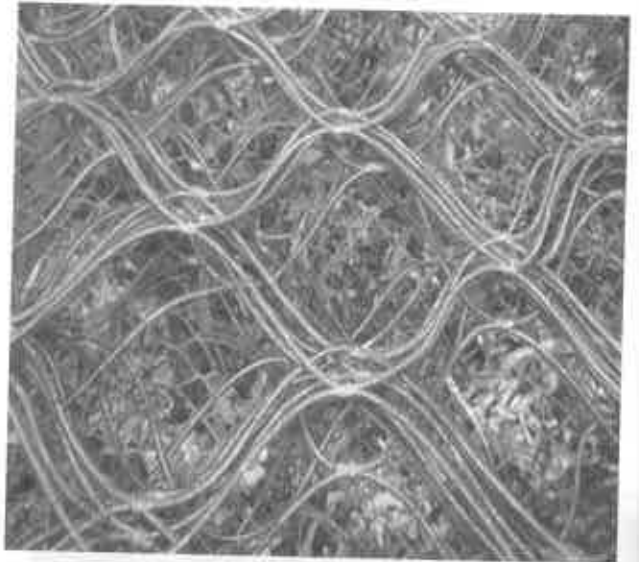
③ 本部町塩川地先の育苗状況



④ 本部町塩川地先の育苗状況(下:敷き網)



⑤本部町備瀬地先の育苗状況



⑥本部町備瀬地先の育苗状況(下:敷き網)



⑦水納島地先の本張り生育状況(敷き網あり)



⑧水納島地先の本張り生育状況(敷き網なし)



⑨備瀬地先の本張り生育状況(敷き網あり)



⑩備瀬地先の本張り生育状況(敷き網なし)